

メディア・リテラシーのこれまでとこれから

吉田清彦

(鈴木みどり編『メディア・リテラシーの現在と未来』世界思想社 などを参考に作成)

●「メディア・リテラシー」とは、

- ・「メディアについて系統的かつ理論的に学ぶ」こと
- ・「メディアについて理論的かつ体系的に学ぶ」こと

●「メディア・リテラシー」を意味する用語

「メディア・リテラシー media literacy」……カナダ、アメリカ、日本
「メディア教育 media education」……ヨーロッパやラテン・アメリカの国々
「メディア・スタディーズ media studies」……イギリス

●世界での取り組み

1960年代 メディアについての教育の必要性が世界で提起され、それ以降、メディア・リテラシーの研究は、理論と実践の両面で、世界各地の教育関係者、メディア研究者、及び、多様な市民によって積み重ねられる。

1980年代からは、ユネスコ関連の世界会議が度々開催されるようになっていく。

82年 (メディア教育に関する) グリェンバルト会議

89年 カナダ・オンタリオ州教育省が『Media Literacy= Resource Guide』を発行

90年 トゥルーズ会議(「メディア教育の新しい方向」)

(世界45か国から 200名を超える参加者を得て、この領域では初めての実践者と研究者が集う大規模な国際会議に。世界のメディア・リテラシー関係者が集まった初めての国際会議。この会議をきっかけして、メディア・リテラシーに関するグローバル・ネットワークが広がっていく)

95年 第1回「メディアと子ども」世界サミット(メルボルン)

97年 第1回国際フォーラム「若い人たちとメディア」(パリのユネスコ本部で開催)(研究者が中心)

98年 第2回「メディアと子ども」世界サミット(ロンドン)

99年 「ウィーン会議」(「メディアとデジタル時代における教育」)

00年 4月 国際シンポジウム(台北)

00年 5月 「サミット2000」(「子ども・若い人たちとメディア」)(カナダ・トロント)
(メディア・リテラシーの実践的研究を中心に開催。世界54か国からメディア専門家1500名が参加)

00年11月 第2回国際フォーラム「若い人たちとメディア」(シドニー)

01年 3月 第3回「メディアと子ども」世界サミット(ギリシャ)

03年12月 国連・世界情報社会サミット(スイス・ジュネーブ)

05年 国連・世界情報社会サミット(チュニジア・チュニス)

●日本での取り組み

★FCTの取り組み

1977年 「FCT=子どものテレビの会」発足

92年 FCT、邦訳版『メディア・リテラシー』を発行(リベルタ出版)

99年 「FCT市民のメディア・フォーラム」(前年、名称変更)NPOに。

★女性グループの取り組み

90年代中頃から、それまで「女性とメディア」「メディアとジェンダー」の問題に長く取り組んできた女性たちの間で、メディア・リテラシーへの関心が高まってくる。

★女性行政や女性センターでの取り組み

95年 第4回国連世界女性会議で採択された「行動綱領」で、重点的に取り組むべき12の領域の一つに「女性とメディア」が位置づけられ、95年以降、政府や地方行政レベルで「女性とメディア」への取り組みが始まる。

●メディア・リテラシーの目的

- (1)メディア社会に生きていることを意識化する。
- (2)メディアからの情報をクリティカルに分析し、評価する力を獲得する。
- (3)クリティカルな評価や判断に基づいて、自分自身の表現を含む新しいコミュニケーションを創り出す。

(F C T・宮崎寿子「何のための／誰のためのメディア・リテラシーか」

／「fctGAZETTE」No.73 (01.3) 「F C T国際シンポジウム2000」報告より)

●メディア・リテラシーの定義・解説のいろいろ (抄)

◇「メディア・リテラシーとは、市民がメディアを社会的文脈でクリティカルに分析し、評価し、メディアにアクセスし、多様な形態でコミュニケーションを創りだす力をさす。

また、そのような力の獲得をめざす取り組みもメディア・リテラシーという。」

(鈴木みどり編『メディア・リテラシーの現在と未来』世界思想社 P 4 / 01.10)

◇リテラシーは「読み書きの能力」の意。メディアリテラシーとは、テレビや新聞などメディアの情報を読み解き、使いこなす能力のことです。また、そのような能力を高めていく取り組みもメディアリテラシーと言います。

メディアは現実をそのまま伝えているのではなく、情報収集・発信の段階でさまざまなイデオロギーや価値観が入っています。ですから、メディアの情報をうのみにしないで、たとえば「どのように構成されているのか」「どんな考え方や価値観を伝えようとしているのか」「商売とどう結びつけているのか」「どのようなテクニックが使われているのか」など、自分で批判的に分析してみることが必要です。

情報化社会においては、情報を選択すると同時に、単なる情報の“受け手”ではなく、“読み手”になることが求められています。また、情報を発信する能力も高めていきましょう。

(メディアネット香川「メディアと女性問題入門編 こんな表現…どう思う？」P 12 / 98.3)

◇(メディア・リテラシーとは)メディア(主として新聞、テレビ、雑誌などのマスメディア)による情報をただ一方的に受け取るのではなく、メディアを批判的に読み解いていく能力を意味する。また、その過程で見えてくる情報の歪み、欠落、偏りについて積極的にメディアに接近し、意見を述べ、反論し、さらにはメディア(情報伝達の方法)を創造していく力、また、そうした力の獲得を目指す取り組みも含まれる。

たとえば、メディアの意思決定への参画が限定されている女性が、メディア・リテラシーを育てることは、性差別的に表現されることから自分を守り、あるいは自分のなかに知らず知らずうちに内面化されている固定的な男女像を相対化し自由で主体的発想で物事をみる態度や能力を高めることにつながる。諸外国では学校教育・社会教育のカリキュラムにもなっているが、日本でも、ジェンダーや人権の視点からのメディア批判のひとつ、対案型の取り組みとして注目が高まっている。

(「報道と女性」研究会「新聞の中の家族像を読み解く」、福岡県女性総合センター

「あすばる」『平成10年度調査研究支援事業報告書』P 92 / 99.3)

◇これ(メディア・リテラシー)はメディアの読み書き能力、言い換えれば、メディアを解読する能力、そして利用する能力のことです。私たちのものの考え方、見方が大きくメディアに依存していることを知り、メディアが社会のなかでどんな力をもっているのか、私たちのなかに何をつくりだしているのかを明らかにして、ひたすらに従順な受け手であることをやめるために身につけたい能力が「メディア・リテラシー」です。

メディア・リテラシーの目的の第1は、メディアのなかのゆがみを見抜いて批判することです。

(中略)メディア・リテラシーの目的の第2は、つまり、メディアがつくりだす現実について、批判的な視点で読み解くことです。

(中略)メディア・リテラシーの追究は、結局、かなりの規模で社会を変えることにつながるでしょう。

(萩原弘子「すべてはメディアを通してやってくる」、

大阪府生活文化部女性政策課「女と男のジャンプ情報」No.69 P 4 ~ 5 / 97.9)

★放送行政やメディア（放送界・放送局）での取り組み

- 95年 郵政省「多チャンネル時代における視聴者と放送に関する懇談会（多チャンネル懇）」を設置（～96年）。Vチップをめぐる議論
- 98年 郵政省「青少年と放送に関する調査研究会」を発足。報告書においてメディア・リテラシーについて言及。
- 99年 郵政省、NHK、民放連の三者によって「青少年と放送に関する専門家会合」を発足。「取りまとめ」において、七項目の基本方針の一つに「メディア・リテラシーの向上」をあげ、NHKと在京キー局がメディア・リテラシーと関連する番組を毎年順番に制作。
- 99年 郵政省、教育やメディアの研究、学校や地域の教育現場、市民組織、放送事業者の各領域からの参加者による「放送分野におけるメディア・リテラシーに関する調査研究会」を発足。00年6月に発表した報告書でメディア・リテラシーを定義。

★教育行政や学校教育現場での取り組み

- 90年代末頃～ メディア・リテラシーに関心をもつ教師たちによって、まぎざまな授業の試みがみられるようになり、「授業づくりネットワーク」などの教師を中心とする市民組織も発足。
- 02年～ 「総合的な学習の時間」開始。学習領域として、「国際、福祉、環境、情報」を例示。

★メディア・ウォッチ・グループの発足年度

- ・60年代 67 東京のこだま会
- ・70年代 75 (国際婦人年 第1回世界女性会議開催。行動計画採択)
77 FCT市民のテレビの会 (首都圏)
- ・80年代 80 (第2回世界女性会議開催。行動プログラム採択)
81 月火水の会 (関西)
84 コマーシャルの中の男女役割を問い直す会 (関西)
85 (第3回世界女性会議開催。女子差別撤廃条約に日本批准)
〃 女性と新聞メディア研究会 (東京)
88 情報サークル「いい輪」 (宝塚)
89 メディアの中の性差別を考える会 (富山)
- ・90年代 91 放送と女性ネットワーク in 関西
94 自主学习グループ・アングル (岸和田)
〃 「報道と女性」研究会 (福岡)
95 (第4回世界女性会議—北京会議開催。行動綱領採択)
〃 ジェンダーとコミュニケーション・ネットワーク (首都圏)
〃 イメージ&ジェンダー研究会 (東京)
〃 ふなばし女性会議 メディア研究会
96 女性とメディア研究会 (名古屋)
〃 メディア・フォーラムおかやま
〃 西多摩メディアに係わる女性の会
97 メディアウォッチング香川
〃 ジェンダーと表現の会 (東京)
98 メディアを考える・かわさき
〃 市民とメディア研究会・あくせす (名古屋)
99 メディアリテラシー倶楽部 (名古屋)
〃 市民メディアねっと (関西)
- ・2000年代01 サイバーフェミニズム研究会 (関西)

【関連図書と発行年度】

★メディア・リテラシー

- ・カナダ・オンタリオ州教育省編／F C T（市民のテレビの会）訳『メディア・リテラシー：マスメディアを読み解く』リベルタ出版 92.11 3440円
- ・渡辺武達『メディア・リテラシー 情報を正しく読み解くための知恵』ダイヤモンド社 97.1 1600円
- ・鈴木みどり編『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』世界思想社 97.6 2300円
- ・メディアリテラシー研究会『メディアリテラシー メディアと市民をつなぐ回路』日本放送労働組合 97.9 900円
- ・菅谷明子『メディア・リテラシー ―世界の現場から―』岩波新書 00.8 660円
- ・鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー【入門編】』リベルタ出版 00.8 1900円
- ・鈴木みどり編『メディア・リテラシーの現在と未来』世界思想社 01.10 2300円
- ・A・シルバールラッド他著／安田尚監修『メディア・リテラシーの方法』リベルタ出版 01.10 2800円

★女性とメディア

▷ 総論

- ・上野千鶴子『セクシー・ギャルの大研究 ―女の読み方・読まれ方・読ませ方』光文社（カッパサイエンス）82 700円
- ・東京都生活文化局『マスメディア文化と女性に関する調査研究』86.10（非売品）
- ・小玉美意子『新版 ジャーナリズムの女性観』学文社 91.10 1900円
- ・加藤春恵子、津金澤聰廣『女性とメディア』世界思想社 92.6 1850円
- ・村松泰子／ヒラリア・ゴスマン編『メディアがつくるジェンダー 日独の男女・家族像を読みとく』新曜社 98.2 3200円
- ・財東京女性財団『女性とメディアの新世紀へ』99.3（非売品）
- ・田上時子監修／大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）『メディア・リテラシーとジェンダー』（Dawn Hand Book 3）財大阪府男女協働社会づくり財団 00.3 600円

▷ 各論（テキスト分析）（代表的なもの）

- ・寿岳章子『日本語と女』岩波新書 79 520円
- ・ことばと女を考える会『国語辞典にみる女性差別』三一新書 85 800円
- ・井上輝子＋女性雑誌研究会『女性雑誌を解説する COMPAREPOLITAN ―日・米・メキシコ比較研究』垣内出版 89.10 2800円
- ・キトレッジ・チェリー（栗原葉子・中西清美共訳）『日本語は女をどう表現してきたか』福武書店 90.7 1200円
- ・衿野未矢『レディース・コミックの女性学』青弓社 90.11 1700円
- ・伊東良徳・大脇雅子他『教科書の中の男女差別』明石書店 91 1880円
- ・若桑みどり・萩原弘子『もうひとつの絵画論 ―フェミニズムと芸術』松香堂 91 2000円
- ・田嶋陽子『フィルムの中の女』新水社 91.11 2200円
- ・上野千鶴子・小倉千加子・富岡多恵子『男流文学論』筑摩書房 92.1 1800円
- ・メディアの中の性差別を考える会『メディアに描かれる女性像 新聞をめぐる（増補・反響編付）』桂書房 93.11 2060円
- ・月火水の会『新聞を通して見えてくる男社会』94.3 1300円
- ・宮 淑子『メディア・セックス幻想 AVにつくられる女と男の性文化』太郎次郎社 94.11 1800円
- ・田中和子・諸橋泰樹他編『ジェンダーからみた新聞のうら・おもて』現代書館 96
- ・岩男壽美子『テレビドラマのメッセージ 社会心理学的分析』勁草書房 00.5 3300円
- ・斎藤 美奈子『紅一点論』ちくま文庫 01.9 780円

★その他

- ・隅井孝雄『テレビCMと子どもたち』あゆみ出版 81.12 980円
- ・無藤隆『テレビと子どもの発達』東京大学出版会 87.12 2500円
- ・香取淳子『若者とメディア』リベルタ出版 90.5 1500円
- ・鈴木みどり『テレビ・誰のためのメディアか』学藝書林 92.6 2270円
- ・佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房 96.11 2884円
- ・草野 厚『テレビ報道の正しい見方』PHP新書 00.11 660円